

**三菱一号館美術館 — 都市中枢部の美術館**  
**A Trial of the Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo**  
**— From a Re-born Building to the New Museum**

高橋 明也  
Akiya Takahashi

**【発表要旨】**

2010 年 4 月にオープンした三菱一号館美術館は、東京駅周辺の実美術館の中でも最も若い美術館のひとつだ。その特徴は、まず建物と立地にある。もともと 1894 年（明治 27 年）に、イギリス人建築家ジョサイア・コンドル（コンダー）によって三菱合資会社銀行部の最初のオフィスとして建てられたこの建物は、震災や戦災を生き延びながらも、1968 年、老朽化のために解体された。その後 2009 年に、三菱地所（株）による丸の内再開発計画の一環として復元・再建され、美術館への転用が決まった経緯がある。

我が国の美術館としては比較的珍しい、都市の中心部に立地しながら独立したランドマーク的性格の建物を有するという、三菱一号館美術館の特徴は、こうした歴史に由来している。

ほぼ年 3 回の企画展を主軸とした美術館活動は、国際的な規模と質を兼ね備えた展覧会を開くことで、丸の内という我が国有数のビジネス・センターの文化活動を深く支えている。展覧会の内容は、一号館が建設された 19 世紀末の西洋近代美術の展覧会に加えて、近年では 16～18 世紀の古典美術や、日本の近代美術、さらにはデザイン、ファッション、写真など、広い分野に対象領域を広めつつある。トゥールーズ＝ロートレックやルドン、ヴァロットンなど、世紀末の美術家たちのグラフィック作品を中心としたコレクションも、人々に大変親しまれている。

またそれらと共に、付随するカフェやショップ、講演会などのさまざまな活動なども来場者に好評で、全体として、高いレベルの文化スポットを形成し、東京駅周辺の他の美術館と連携しながら、東京という稠密な都市の中心部における美術館ネットワークを形成している。

**【プロフィール】**

三菱一号館美術館館長。1953 年生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。1984-86 年文部省在外研究員としてオルセー美術館開館準備室に在籍。国立西洋美術館学芸課長を経て、2006 年より現職。2010 年フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受章。

「オルセー美術館展」（1996 年、1999 年、2006 年）、「万国博覧会の美術」展（2004～2005 年）、「ジョルジュ・ド・ラトゥール — 光と闇の世界」展（2005 年）、「カラー 光と追憶の変奏曲」展（2008 年）、「マネとモダン・パリ」展（2010 年）などの展覧会コミッショナーを務める。近著に「美術館の舞台裏」（ちくま新書）、新生オルセー美術館（新潮社）。